

ナイロビ大学アフリカ研究所の説明（HP 用原稿）

■ナイロビ大学アフリカ研究所（Institute of African Studies, University of Nairobi : IAS）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科は、ナイロビ大学アフリカ研究所とのあいだに学術交流協定を締結して、研究者や学生の交流、共同研究プロジェクトの実施、ワークショップの開催や共同出版などの学術的交流を推進しています。具体的には、アフリカ地域研究センター（現アフリカ地域研究資料センター）が1987年にIASとのあいだに最初の学術交流協定を結び、その後、この協定は2004年にASAFASに引き継がれて現在にいたっています。本ITPプログラムはIASとのあいだの緊密な協力関係にもとづいて実施されています。

IASは、1965年にナイロビ大学開発研究所の文化部門（Cultural Division, Institute for Development Studies）として発足し、1970年にはアフリカ研究所として独立しました。その設置目的としては、先史学と歴史学、民族誌と社会人類学、言語学、音楽と踊りの研究、伝統的および近代的な文学の研究、伝統的および近代的な工芸の研究、宗教の研究の推進があげられています。ケニアでこうした分野で調査研究をする外国人の多くは、IASの共同研究員となっています。

IASが発足した当時には、ケニアの人文社会科学をになう蒼々たるメンバーがこの研究所で活躍していました。たとえば、初代の所長はナイロビ大学の副学長をつとめていた歴史学者のB. A. Ogotであり、さらには、Taban lo Liyong、E. S. Atieno-Odhiambo、Okot p'Bitekなど、東アフリカにおける最良の知識人たちがこの研究所を活動の拠点としていました。また、George W. Mathu、Benjamin E. Kipkorir、Chris L. Wanjala、Gideon S. Were、Simiyu Wandibbaといった歴代の所長は、いずれも日本学術振興会の外国人招へい研究者として来日し、日本人研究者との研究交流と親交をふかめています。

現在の所長は、医療人類学者のIsaac K. Nyamongoであり、とくにマラリアの蔓延を招来する生活環境の生態学的、社会的分析を専門としています。常勤スタッフの定員は23名ですが、現在のスタッフは17名で、その研究分野やテーマは、考古学、生態人類学、開発人類学、ジェンダーと開発、観光問題、食糧安全保障などです。

同研究所の連絡先は、以下のとおりです。

Institute of African Studies, University of Nairobi

P. O. Box 30197, Nairobi, Kenya

電話：+254-20-374-4123（所長秘書）、374-2080、374-2078

■スワヒリ語の研修について

本ITPプログラムのカウンターパートであるナイロビ大学にはスワヒリ語のコースが設けられていますが、大学レベルのコースは日本人の初級クラスの学生にはむずかしすぎますし、また、学期の途中から大学のコースに参加することはできません。そのため、ITPプログラムの初年度である2007年度に、アフリカ研究所所長のニャモンゴ氏とともにほかの可能性を検討した結果、以下の学校を選定しました。そして2007年度にはASAFASの2人の学生がインプットレベルの研修をおこないました。

ACK (Anglican Churches of Kenya) Language and Orientation School

この学校は、いつでも入学可能であり、マンツーマンのレッスンを受けることができます。ベーシック・コースは 60 時間に設定されていますが、時間数もまた、調整が可能です。一時間あたりの授業料は、375 ケニアシリング (1 シリングは約 1.55 円)。これ以外に入学料 1200 シリングが必要です。

また、この学校はスワヒリ語だけではなく、英語、フランス語、アラビア語、そしてキクユ語、ルオ語、カレンジン語、マサイ語など、ケニアのさまざまな民族語の授業も提供しています。日本語のクラスもあります。

住所：Bishop's Road, off Ngong Road (opp. NSSF Building)

P. O. Box 47429, Nairobi, KENYA

Tel: +254-20-2721893/ 2716694, Fax: +254-20-2714750/ 2718442

E-mail: acklanguageschool@ackkenya.org

URL: http://www.ackkenya.org/ack_language_school.htm

■ナイロビ・フィールド・ステーション (ナイロビ F S)

ナイロビには、京都大学が運営しているナイロビ F S があります。これは、ケニアとウガンダでの教育研究を推進するために設置されたもので、現地で教員と学生が一緒になってインテンシブなフィールドワークを実施するとともに、現地の研究機関との共同研究を促進する活動をおこなっています。そしてこの F S には、インターネット環境、コンピュータとその周辺機器、辞書類、電話、作業机や簡単な自炊設備などが備え付けられており、ITP プログラムで派遣される学生は、この施設を利用することができます。

http://areainfo.asafas.kyoto-u.ac.jp/nfs/stationinfo_new.htm

■日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター

このセンターは、日本と海外の教育研究機関との連携を推進したり、日本の大学などの研究機関が海外拠点を設置することを支援することを主たる目的としていますが、現地に滞在する研究者に対する便宜供与もおこなっています。上記のナイロビ F S とは密接な連携をもっており、ITP プログラムで派遣される学生のみなさんは、ナイロビでの連絡先を同センターに依頼することができます。住所などは以下のとおりです。

JSPS Nairobi Office

c/o Mr. Itsuhiro Hazama

P. O. Box 14958, Nairobi, Kenya

Tel: +254-20-444-2424, Fax: +254-20-444-2112

Email: jps1@africaonline.co.ke